最終更新日：2015年11月20日
JBCCホールディングス株式会社
代表取締役社長 山田　隆司
問合せ先：取締役常務執行役員　経営管理担当　一木 一夫 TEL 03-5714-5171
証券コード：9889
http://www.jbcchd.co.jp

当社のコーポレート・ガバナンスの状況は以下のとおりです。

Ⅰ コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報

1. 基本的な考え方

当グループの経営方針は、1）透明性の高いグループ経営、2）企業価値の増大、3）日本のIT活用促進に貢献、の3項目とし、ステークホルダー(お客様、株主、お取引先、社員、社会)に対し、常に最高の価値を提供し、企業価値を継続的に向上できるよう努めております。また、公正かつタイムリーな情報開示を行い、株主の皆様、投資家の皆様とのコミュニケーションを深めていくため、IR活動の充実をさらに進めてまいります。

当グループにおきましては、平成18年4月1日をもって純粋持株会社体制へ移行いたしました。このことにより、純粋持株会社によるガバナンスのもと、各事業会社が迅速な意思決定と事業展開を行える体制を整えました。

当社の取締役会は、1名の社外取締役を含む7名の取締役により構成され、業務執行の監督並びに重要な意思決定を行っております。また、監査役会は、2名の社外監査役を含む3名の監査役により構成され、独立した立場から経営の監視を行っております。さらにグループベースでの内部統制システムの構築を図っており、業務活動の妥当性や適法性について検証するため代表取締役直属の内部監査担当を任命しております。

なお、コンプライアンスにつきましては、コンプライアンス経営を徹底し役員及び社員の意識付けを図るために、平成14年4月に「JBCC行動基準」を制定いたしております。さらに、平成18年4月1日の純粋持株会社体制への移行に伴い「JBグループ行動基準」として改訂し、この「JBグループ行動基準」の実践を通じて当グループの役員・社員一人ひとりが高い倫理観を共有し、今後とも広く社会から信頼される企業体となるよう努めてまいります。

2. 資本構成

外国人株式保有比率 更新	10%以上20%未満

【大株主の状況】更新

氏名又は名称	所有株式数（株）	割合（%）
JBグループ社員持株会	1,418,044	8.00
富国生命保険相互会社 （常任代理人　資産管理サービス信託銀行株式会社）	414,700	2.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	387,900	2.19
CREDIT SUISSE (LUXEMBOURG) S.A. ON BEHALF OF CLIENTS （常任代理人　株式会社三菱東京UFJ銀行）	360,000	2.03
谷口　君代	348,200	1.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	321,500	1.81
MELLON BANK TREATY CLIENTS OMNIBUS （常任代理人　株式会社みずほ銀行決済営業部）	238,600	1.34
新谷　繁八	237,600	1.34
明治電機工業株式会社	200,000	1.12
安田倉庫株式会社	200,000	1.12

支配株主（親会社を除く）の有無	―――
親会社の有無	なし

補足説明

―――

3. 企業属性

上場取引所及び市場区分	東京 第一部
決算期	3 月
業種	情報・通信業
直前事業年度末における(連結)従業員数	1000人以上
直前事業年度における(連結)売上高	100億円以上1000億円未満
直前事業年度末における連結子会社数	10社以上50社未満

4. 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

―――

5. その他コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

―――

Ⅱ 経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

1. 機関構成・組織運営等に係る事項

組織形態	監査役設置会社

【取締役関係】

定款上の取締役の員数	9 名
定款上の取締役の任期	1 年
取締役会の議長	社長
取締役の人数	7 名
社外取締役の選任状況	選任している
社外取締役の人数	1 名
社外取締役のうち独立役員に指定されている人数	1 名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)										
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k
長谷川　礼司	他の会社の出身者											

※　会社との関係についての選択項目
※　本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」
※　近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」

a　上場会社又はその子会社の業務執行者
b　上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
c　上場会社の兄弟会社の業務執行者
d　上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
e　上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
f　上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
g　上場会社の主要株主（当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者）
h　上場会社の取引先（d、eおよびfのいずれにも該当しないもの）の業務執行者（本人のみ）
i　社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者（本人のみ）
j　上場会社が寄付を行っている先の業務執行者（本人のみ）
k　その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
長谷川　礼司	○	長谷川氏は、株式会社アプレッソの顧問を平成27年3月31日付で退任しております。同社とは当社連結子会社のJBアドバンスト・テクノロジー株式会社との間に仕入取引がありますが、その平成26年度仕入高は当社平成26年度連結売上高に対して0.01%未満と僅少であり、一般株主との利益相反は生じにくい状況にあります。また、当社と同社間の直接の資本関係はなく、当社と同社との関係が、社外取締役としての独立性に影響を与えるものではないと判断しております。	長年にわたる企業経営者としての豊富な経験に基づき、実践的な視点から、当社取締役会の適切な意思決定及び経営監督の実現に貢献いただくため、並びに、経営陣からの独立性を有しており、一般株主と利益相反が生じる恐れはありませんので、独立役員に指定しています。

指名委員会又は報酬委員会に相当する任意の委員会の有無	なし

【監査役関係】

監査役会の設置の有無	設置している
定款上の監査役の員数	4 名
監査役の人数	3 名

監査役、会計監査人、内部監査部門の連携状況

内部監査につきましては、代表取締役の直属の組織として3名が担当しております。内部統制システムの有効性評価の主導的役割を担うとともに、主にリスクマネジメントの一環としてのモニタリング、会計監査人から指摘された「内部統制及び会計処理上の勧告事項」のフォローアップ、監査役監査の補佐そして経営トップからの特命事項等を実施しております。
監査役監査につきましては、常勤監査役が中心となり取締役会、経営会議、グループ経営会議等の重要な会議に出席し、経営の意思決定の監督を行っております。
監査役と会計監査人の連携状況については、会計監査人から監査役会に対して、年1度監査計画の説明と意見交換が行われており、また四半期毎に監査結果の報告とそれに対する質疑の機会が設けられております。
監査役と内部監査部門の連携状況については、監査役会の事務局を内部監査部門が兼務しており、監査役会において適時に監査計画および監査実施状況に関する報告および意見交換を行っております。

社外監査役の選任状況	選任している
社外監査役の人数	2 名
社外監査役のうち独立役員に指定されている人数	1 名

会社との関係(1)

氏名	属性	会社との関係(※)												
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
今村　昭文	弁護士													
齊藤　紀夫	他の会社の出身者													

※　会社との関係についての選択項目
※　本人が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「○」、「過去」に該当している場合は「△」
※　近親者が各項目に「現在・最近」において該当している場合は「●」、「過去」に該当している場合は「▲」
a　上場会社又はその子会社の業務執行者
b　上場会社又はその子会社の非業務執行取締役又は会計参与
c　上場会社の親会社の業務執行者又は非業務執行取締役
d　上場会社の親会社の監査役
e　上場会社の兄弟会社の業務執行者
f　上場会社を主要な取引先とする者又はその業務執行者
g　上場会社の主要な取引先又はその業務執行者
h　上場会社から役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ているコンサルタント、会計専門家、法律専門家
i　上場会社の主要株主（当該主要株主が法人である場合には、当該法人の業務執行者）
j　上場会社の取引先（f、g及びhのいずれにも該当しないもの）の業務執行者（本人のみ）
k　社外役員の相互就任の関係にある先の業務執行者（本人のみ）
l　上場会社が寄付を行っている先の業務執行者（本人のみ）
m　その他

会社との関係(2)

氏名	独立役員	適合項目に関する補足説明	選任の理由
今村　昭文	○	弁護士、伊藤ハム株式会社社外監査役	他社における顧問弁護士としての経験も含め、弁護士として豊富な知識と経験に基づく高い見識を有しており、その専門的知見に基づくアドバイスを受けることにより、取締役会における適切な意思決定に貢献いただくため、並びに、経営陣からの独立性を有しており、一般株主と利益相反が生じる恐れはありませんので、独立役員に指定しています。
齊藤　紀夫		株式会社インテージホールディングス社外監査役	当社と同業種である会社において、常勤監査役として経営監視に携わり、その後他社においても監査役を務めるなど、豊富な経験と幅広い知識に基づく高い見識を有しているため、社外監査役に就任していただいております。

【独立役員関係】

独立役員の人数	2 名

その他独立役員に関する事項

―――

【インセンティブ関係】

取締役へのインセンティブ付与に関する施策の実施状況	業績連動型報酬制度の導入

該当項目に関する補足説明

連結業績向上に対する貢献意欲や士気を一層高めることにより、当グループ全体の企業価値増大を図ることを狙いとしています。

ストックオプションの付与対象者	

該当項目に関する補足説明

―――

【取締役報酬関係】

（個別の取締役報酬の）開示状況	個別報酬の開示はしていない

該当項目に関する補足説明

当社の取締役及び監査役に対する役員報酬につきましては、取締役に支払った報酬総額と監査役に支払った報酬総額を記載するとともに、社外取締役および社外監査役の報酬総額を記載しております。

報酬の額又はその算定方法の決定方針の有無	あり

報酬の額又はその算定方法の決定方針の開示内容

当社の取締役、監査役の役員報酬は、ホールディングス体制のもとに、優秀な人材を確保し、業績への貢献、また企業価値の向上につながるよう、職責、役位ごとに設定した報酬として決定をいたします。

取締役の役員報酬の概要、決定方法については以下のとおりです。
1. 役員報酬は、産業規模別、同業他社等の水準を考慮し、職責、役位ごとに基準年俸として設定する。
2. 基準年俸は基本報酬（月額報酬）と業績報酬で構成する。
3. 業績報酬は当年度の業績、貢献度に応じて評価し決定する。

監査役については、職務執行の監督、監査の職責を負うことから、その報酬等は基本報酬とし、固定額を支給するものとします。また、役員報酬等は株主総会で決議された報酬限度額の範囲内で支払われております。
また、当社は平成15年6月に役員退職慰労金制度を廃止しております。

【社外取締役（社外監査役）のサポート体制】

社外監査役は内部監査部門がサポートしております。

2. 業務執行、監査・監督、指名、報酬決定等の機能に係る事項（現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要）

1. 役員等の状況
取締役（7名）：男性7名、女性0名
（うち社外取締役1名：男性1名、女性0名）
監査役（3名）：男性3名、女性0名
（うち社外監査役2名：男性2名、女性0名）
執行役員（取締役を兼務していない者）（2名）：男性1名、女性1名

2. 取締役会
取締役会においては、当社「取締役会規程」に基づき、経営に関する重要事項について意思決定するとともに、各取締役の業務執行を監督しております。

3. 執行役員
経営監督機能と業務執行機能の役割分担の明確化を図るため、執行役員制度を導入しております。これにより、経営の意思決定のスピードアップを図り、各部門の業務を円滑かつ迅速に遂行し、経営体制の一層の強化・充実に努めております。

4. 内部監査及び監査役監査の状況、監査役の機能強化に向けた取組状況
内部監査につきましては、代表取締役の直属の組織として3名（男性3名、女性0名）が担当しております。内部統制システムの有効性評価の主導的役割を担うとともに、主にリスクマネジメントの一環としてのモニタリング、会計監査人から指摘された「内部統制及び会計処理上の勧告事項」のフォローアップ、監査役監査の補佐そして経営トップからの特命事項等を実施しております。
監査役監査につきましては、常勤監査役が中心となり取締役会、経営会議、グループ経営会議等の重要な会議に出席し、経営の意思決定の監督を行っております。
また、監査役会の事務局を内部監査部門が兼務しており、監査役と内部監査部門とは監査役会において適時に相互の監査計画及び監査実施状況に関する報告及び意見交換を行っております。
なお、会計監査人から監査役会に対して、年1度監査計画の説明と意見交換が行われており、また四半期毎に監査結果の報告とそれに対する質疑の機会が設けられております。

5. 会計監査の状況
当社の会計監査人は、あらた監査法人であり、当社および当グループは、会社法および金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。
当社の会計監査業務を執行している公認会計士は、以下のとおりです。

澤山　宏行　，　岩尾　健太郎

なお、監査年数が7年を超える公認会計士はおりません。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は、取締役会のほかにも、主として執行役員で構成されるグループ全体の事業戦略及び管理に係る事項を審議する経営会議を設置しており、十分な討議、検討を経て、取締役会決議を行う体制としています。
以上により、当社では現状のガバナンス体制を採用しております。

Ⅲ株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況

1. 株主総会の活性化及び議決権行使の円滑化に向けての取組み状況

	補足説明
集中日を回避した株主総会の設定	より開かれた株主総会を目指し、従来より集中日以外の日に株主総会を開催しています。 第51期定時株主総会は2015年6月17日に開催しました。
電磁的方法による議決権の行使	議決権行使に関する株主様の利便性を勘案し、インターネットによる議決権行使可能な環境を整えています。
議決権電子行使プラットフォームへの参加その他機関投資家の議決権行使環境向上に向けた取組み	議決権行使に関する株主様の利便性を勘案し、議決権電子行使プラットフォームへ参加しています。
その他	株主様の便宜を図るため、当社ホームページに招集通知を掲載しています。 株主様に株主総会における報告事項等をより一層理解していただくため、事業報告等の内容をわかりやすく説明した資料をスクリーンに投影し説明しています。 株主総会終了後に懇談会を開催し、株主様と当社役員との懇談の場を設けるとともに、グループ会社の新商品等の簡単なデモを行い、当グループの事業内容の理解促進に努めています。

2. IRに関する活動状況

	補足説明	代表者自身による説明の有無
ディスクロージャーポリシーの作成・公表	情報開示に関する基本方針を当社ホームページへ掲載しております。	
アナリスト・機関投資家向けに定期的説明会を開催	例年5月、11月に決算や業績についての決算説明会を開催しています。	あり
IR資料のホームページ掲載	決算や業績の内容について、決算短信、決算説明会の説明資料等を掲載して います。また、有価証券報告書、事業報告、株主通信なども掲載し、株主様・投資家の利便性に配慮したIRサイトの運営に努めています。 http://www.jbcchd.co.jp/ir/library/	
IRに関する部署（担当者）の設置	経営企画　広報・IR　が担当しています。	

3. ステークホルダーの立場の尊重に係る取組み状況

	補足説明
社内規程等によりステークホルダーの立場の尊重について規定	当グループは、「社会的存在」としてまた株式公開企業であるJBCCホールディングス株式会社を擁する企業グループとして、社会や市場に対して高い倫理と公平さで応える責務を担っています。CSR（企業の社会的責任）を果たしていく上で適切な判断を下すための指針として「JBグループ行動基準」を制定しております。
環境保全活動、CSR活動等の実施	JBグループでは「ベスト・サービスカンパニーを目指す」との考え方のもと、企業グループの社会的責任に関する対応として、1. 社会貢献活動 2. 環境活動 3. JBグループ行動基準 4. 内部統制を中心に推進しております。なお「CSR情報」としてホームページに記載しております。
ステークホルダーに対する情報提供に係る方針等の策定	当社は、東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則」（以下、適時開示規則）に則り、情報開示を行っています。また、適時開示規則に該当しない情報についても、投資家のみなさまのご判断に役立つ情報については、可能な限り公平かつタイムリーに開示することを基本方針としています。
その他	＜ダイバーシティの推進＞ 当社と事業会社各社（JBグループ）は、さまざまなお客様に信頼される「グローバルなベストサービスカンパニー」を目指しており、多様な人材での対応がお客様満足につながると考えております。以下の3つの柱をもとに人材の育成・活用のみならず、働きやすい環境の整備も推進します。 ・社員が元気溌剌と働く風土創り ・女性の活躍を推進 ・働き方の変革を推進 ＜当社グループの女性比率の目標＞ 当社グループは、中期経営計画「Innovate2016」（2014年度～2016年度）に基づき、以下を目標とし、女性リーダーを育成する風土と活躍促進の環境作りに取り組んでまいります。 〔2016年度末までの目標〕 1. 新規採用における女性比率30%以上 2. 管理職における女性比率30%以上 〔現在の女性比率（2015年3月31日現在）〕 ・2015年4月新規採用　25. 4%（16名） ・管理職（役員を除く）　6. 9%（24名） ・役員（取締役、監査役、執行役員）　4. 0%（3名） ・従業員（有期社員を含む）　20. 8%（558名）

Ⅳ 内部統制システム等に関する事項

1．内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社は、会社法及び会社法施行規則に定める業務の適正を確保するための体制について、取締役会において決議しております。その概要は以下の通りであります。

1．取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
（1）当社は、コンプライアンスに関する基本原則を定める「JBグループ行動基準」を制定し、当社及び当社子会社を含むJBグループ各社の役員及び使用人全員が社会倫理及び法令に則って業務を遂行するための行動の規範としている。当社の役員は、JBグループ全体におけるコンプライアンスの遵守及びその徹底を率先垂範するとともにその実践的運用を行う体制を構築し、使用人に対するコンプライアンス教育を実施する。
（2）JBグループ全体のコンプライアンス体制の整備及び問題点の把握は、リスクマネジメント委員会が統括し、法務・コンプライアンス担当執行役員がこれに参画し、常勤監査役とも適宜協議を行いながらこれを所管する。
（3）JBグループにおいて法令、社内規則や社会倫理に反すると疑われる行為があった場合、これを直接通報できる体制を確保する。このためにJBグループ各社において共通の「JBグループ内部通報規程」を定め、通報窓口として社外弁護士及び常勤監査役を含む「コンプライアンスヘルプライン」を設置する。通報者においては本人の希望により匿名性が約束され安全と利益が保障される。法務・コンプライアンス担当執行役員は、通報窓口からの指摘があった場合、必要に応じ通報事実について調査を指揮・監督し、適切な対策を策定する。また社長と協議のうえ、必要であると認められた場合、対策を実施し、さらにJBグループ内において事実を開示し対処及び結果について周知徹底する。
（4）社長は、業務監査を行う内部監査担当を管掌し、内部監査担当は、常勤監査役とも協議のうえ、JBグループ全体にわたる業務執行状況の監査を行う。

2．取締役の職務の執行に係わる情報の保存および管理に関する体制
（1）株主総会、取締役会、経営会議（経営全般について代表取締役からの諮問を受ける会議体）その他の重要な意思決定に係わる情報は、法令、定款、及び社内規程に則り記録・保存・管理され、株主を含む権限者及び必要な関係者が閲覧できる体制を維持する。
（2）リスクマネジメント委員会は、情報セキュリティ部会をもって、個人情報保護を含む、情報の安全管理に関するガイドラインを定め周知徹底する。

3．当社及び当社子会社の損失の危機（リスク）の管理に関する規程その他の体制
（1）事業の継続・発展を実現するための投資・戦略的提携などに関する事項については、コーポレートスタッフ（当社においてJBグループ全体にわたるスタッフ業務を司る部門）の各責任者が、所管部門に関する必要なリスク評価を行ったうえで提示する資料に基づき、取締役会もしくは経営会議において最終的に評価・決裁する。
（2）日常業務における債権管理等については、「債権保全管理規程」、「連結決算規程」及び各種の取引先選定に係る基準など、業務遂行上のリスクを管理する規程に従い処理される。
（3）有事の対応については、職務分掌に基づく役割分担に応じコーポレートスタッフの各責任者が連携してこれにあたり、社長がこれを統括する。経営会議及びリスクマネジメント委員会は、平時において有事対応体制の整備を行う。
（4）リスクマネジメント委員会は、情報セキュリティ部会、コンプライアンス部会、BCP（事業継続）部会の3つの部会から構成され、各々部会の下に各グループ会社の担当者を配し、グループで推進する施策について、各社での策定や実施を推進する。
（5）当社及びJBグループ各社間で経営指導契約を締結すると共に、共通の「事業会社管理規程」を制定し、当社からJBグループ各社に対する指導ないし管理等の指針を明確にする。

4．当社及び当社子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
（1）取締役会は、当社取締役の中から社長を選定し、社長に取締役会が定める経営機構におけるコーポレートスタッフ等を任命させる。コーポレートスタッフは、職務分掌に基づき業務の執行をすると共に、経営指導契約に基づきJBグループ各社の経営を支援する。
（2）取締役会の意思決定の妥当性を高めるため、法律が定める独立性用件を満たす社外取締役を任命する。JBグループ各社に対しては原則として当社の経営幹部より適切な人材を派遣し、効率的な職務の執行を支援する。
（3）取締役会が十分に機能するよう、その運営実務を遂行するための事務局を設置する。
（4）社長は、JBグループの事業を代表する経営幹部で構成されるグループ事業推進組織を統括し、その効率的運営と監視・監督体制の整備を行う。
（5）各取締役の職務分掌と権限については、社外取締役を含めて適切な役割分担と連携が確保される体制を、年度初めにおける組織再編時に設定する。
（6）中期経営計画及び年度予算を策定し、グループ全体としての目標達成に向けて各分掌、各社・各部門において具体的な戦略を立案・実行できる体制を構築する。
（7）IT企業の優位性を生かし、積極的なITの有効活用を通じて業務の効率化を図る。
（8）当社及びJBグループ各社間で経営指導契約を締結すると共に、共通の「事業会社管理規程」を制定し、当社からJBグループ各社に対する指導ないし管理等の指針を明確にする。

5．当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
（1）JBグループ各社にコンプライアンス推進担当者を置くとともに、当社においてJBグループ各社の業務執行に関する内部監査を行う専任組織を設置する。その際、「JBグループ行動基準」は、JBグループに所属する役員及び使用人全員が業務を遂行するうえでの行動の規範であり、JBグループ各社における適切な内部統制システム整備の指針となる。
（2）JBグループ各社の社長により構成されるグループ経営会議を定期的に開催し、当社代表取締役社長による議事運営の下、グループ経営執行の重要課題の審議決定を行う。JBグループ各社において重要な事象が発生した場合には、当該会議における報告が義務付けられる。
（3）コーポレートスタッフ会議を定期的に開催し、スタッフ責任者間でグループ全体としての実務的な懸案事項の解決方法を周知し、JBグループ各社における実行を支援する。
（4）内部通報制度をJBグループ全体として運用する。
（5）コーポレートスタッフの経理部門責任者は、JBグループの統一会計基準を策定し、連結決算対象各社間において共通の「連結決算規程」を制定させ、主要な計数的問題状況を常時モニタリングする。
（6）JBグループ間における会社間取引は、法令・会計原則・税法その他の社会規範に照らし適切なものであることを求められる。
（7）当社からJBグループ各社へ監査役を派遣することにより、内部監査部門と連携した内部統制体制に関する監査を実施する。また各社監査役と当社の監査役、内部監査部門で構成されたグループ監査役連絡会を設置し、定期的に担当企業の状況に関する報告会を実施する他、連携してJBグループとしての監査の実効性の向上を図る。
（8）当社及びJBグループ各社間で経営指導契約を締結すると共に、共通の「事業会社管理規程」を制定し、当社からJBグループ各社に対する指導ないし管理等の指針を明確にする。

6．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを「求めた場合」における当該使用人に関する事項
（1）内部監査担当が日常的に監査役の職務のサポートを行う他、監査役の求めがあったときは、監査役の職務を補助する使用人（監査役スタッフ）として、特に適切な人材を配置する。

7．前項の使用人の取締役からの独立性に関する事項及びその使用人に対する指示の実行性に関する事項
（1）監査役の求めに応じて配置した使用人については、その独立性を確保するため、業務の執行に当たる役職には従事させず、任命、異動等人事権に係わる事項の決定には常勤監査役の事前の同意を得る。
（2）前号以外の監査役スタッフについては、その適切な職務遂行のため、人事考課は監査役が行い、人事異動は監査役と取締役が協議のうえ実施する。

8．当社の取締役及び使用人並びに子会社の取締役、監査役、使用人が監査役に報告をするための体制、その他の監査役への報告に関する体制
（1）常勤監査役は、取締役会の他、経営会議等の重要な意思決定が行われる会議へ出席するとともに、稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じてJBグループ各社の取締役及び使用人から説明を求める。
（2）代表取締役及び業務を担当する取締役は、取締役会において定期的にあるいは随時、その担当する業務の執行状況の報告を行う。
（3）取締役は、重大なコンプライアンス違反、信用毀損他、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があること等を発見したときは、直ちに監査役に報告する。
（4）当社及びJBグループ各社の取締役及び使用人は、監査役が持株会社としての当社事業の報告を求めた場合、または監査役がJBグループの業務及び財産の状況を調査するため必要がある場合は、迅速かつ的確にこれに対応する。
（5）当社及びJBグループ各社の全ての取締役及び使用人は、JBグループ行動基準に基づき、JBグループが関わる違法、不正または不適切な事象について、これを知ったときは全て上司に報告し、適切な指示を仰ぎ処置を行うべき責務を担う。また行動基準は、上司による隠匿や放置の可能性が認められる場合、これを見逃すことは法的な責任につながる可能性があることを明示し、内部通報制度に基づく直接の通報を奨励する。常勤監査役は内部通報制度（コンプライアンスヘルプライン）の窓口となり、法令に基づく取締役からの報告の他、全ての使用人並びにJBグループ各社の取締役、監査役及び使用人からJBグループが関わる違法、不正または不適切な事象に関する報告を受けこれに対処する。

（6）内部通報規程は、内部通報社が通報を行ったことにより不利益を被ってはならないことを明示し、制度的保護を保障する。

9．その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
（1）会計監査人である監査法人から監査役への監査計画及び監査結果に関しての説明会を設ける。
（2）監査役と会計監査人及び内部監査部門との情報及び意見交換の機会を設ける。
（3）グループ監査役連絡会においては、担当する各社の状況報告のみならず、積極的に意見交換及び提言を行い、連携して問題解決に当たる。
（4）監査役が監査（調査を含む）のために要する費用については当社がこれを負担するものとし、予め年間の監査計画に基づき経費予算を計上する。

2．反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

当社は、当社に課せられた社会的責任や公共的使命を自覚し、健全な事業運営を行い社会からの信用、信頼を確固たるものにするため、以下のとおり反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方を定める。

1．当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力や団体とは、一切関係を持たない。
2．当社の取引先が反社会的勢力であることが判明した場合は、取引の解消に向けた適切な処置を速やかに講ずる。
3．当社は、反社会的勢力からの不当要求には一切応じず、また、その支援、助長、利益供与等につながる行為は一切行わない。
4．万一、反社会的勢力から不当な要求を受けあるいは何らかの問題が生じた場合は、関係行政機関や法律専門家とも協力し、民事・刑事両面からの法的措置を含め速やかに対処する。
5．反社会的勢力による要求が、事業活動上の不祥事や従業員の不祥事を理由とする場合であっても、事案を隠ぺいする行為を行わない。

以上の対応を実践するため、当社は、行動基準に会社及び従業員が遵守すべき事項の根拠を規定する他、次の事項について定め、経営トップ以下、組織として問題への対処を行う。

（1）対応責任部署、責任者
（2）情報の収集・管理方法
（3）協力を要請する行政機関、社外弁護士との連絡・報告ルーチン
（4）具体的対応方法および社員への周知ならびに研修の実施

Vその他

1. 買収防衛策の導入の有無

買収防衛策の導入の有無	なし

該当項目に関する補足説明

―――

2. その他コーポレート・ガバナンス体制等に関する事項

―――

